

令和 7 年 1 月 24 日市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。よろしくお願いいたします。今日は発表案件は 1 件です。

「部活動から(仮称)しずおか地域クラブ活動への転換」ということです。これは先般ですね、地域クラブへの移行で、令和 9 年 9 月、またはその後かもしれないということで、時期を明確にしておりましたが、この度、検討した結果、時期を決めましたので、今回、発表させていただきます。

まず、中学校の部活動ですけれども、少子化に伴って部員数や部活動数も減少しています。それから、教員の働き方改革、この必要性から、今までと、要は先生が、学校の先生が部活動で平日の夕方も、そして、土日も指導をしてくれる、あるいは付き添ってくれるということでしたけれども、それがやはり教員の働き方改革という点で、それには無理があるということです。したがって、今までと同じような体制で運営するのは、困難になってきています。

国も 2023 年から 2025 年までを「改革推進期間」と位置づけて、この活動の場を「部活動」から地域の運営団体・実施主体による地域クラブ活動及び地域文化クラブ活動、これを地域クラブ活動と呼んでいますけれども、これへの転換をするという方針を示しています。

これまで、静岡市においては、この転換について教育委員会が主導して、これまでの発表ですけれども、2026 年の夏から休日について、2030 年から平日・休日ともに実施する、そういう計画を示して検討を進めてきました。

このため、教育委員会が実証事業をやっていましたが、その中で課題が明らかになってきました。平日と休日を分けた方法では課題があるということです。それからもう 1 つ、地域クラブ活動ということは、もう学校ではない、先生ではない方々が指導していただくことということになりますので、そうすると新しい体制を作っていくんですが、社会全体の力を活用していくことが必要です。

静岡市では、子どもたちが、これまでもこれからも、スポーツ・文化芸術活動を身近に親しむことができる機会を確保するために、この学校の部活動に変わる新たな活動の場としては地域クラブというのを設置して、仮称しずおか地域クラブ活動を市民や民間企業・団体等の地域社会の力と一緒に実施していきたいと考えています。

昨年 11 月に、市長部局と教育委員会が共同で「しずおか地域クラブ活動推進

プロジェクトチーム」というのを立ち上げて、改めて部活動から地域クラブへの移行、これをどうするかってことを検討してきました。

この結果、静岡市では、この転換、部活動から地域クラブ活動への転換を、平日と休日ともに2027年9月に行うことにしました。

まず、この平日と休日の数を同時期に転換する理由ですけれども、実証事業を2023、24年度と行ったんですが、平日は部活動のままで、休日に地域クラブを実施やるとですね、平日と休日の指導者が異なることになります。そして、実施主体が異なるので、例えば、疲労骨折をした時に、それがどこの指導によって疲労骨折したかわからないわけです。そういったことで、やっぱり責任の所在が不明確になるというような問題が明らかになりました。そこで、静岡市では、この地域クラブへの転換を平日と休日の同時に行うということにいたしました。結論を先に申しますと、これは2022年冬に市がホームページや学校を通じてお知らせをしていた予定です。2026年夏に休日の部活動を終了して、地域クラブに移行するので、平日は部活動、休日は地域クラブと活動となります。そして、2030年に平日・休日ともに地域クラブ活動、こういう形になります。

今回、変更した結果、2027年の9月に平日と休日の活動を、同時期に転換するというようにいたしました。この間、少し試行をやります。図をずっと上げてください。ごめんなさい、下ですね。次の図をお願いします。

結果的にどうなるかということですが、2027年度の9月に、これをスタートしますので、今の小学6年生は、今のというのは25年度、この春です。この4月に入学する中1生は、ずっとこの間は部活動で行うことになります。部活動が続いていることになります。今の小学5年生ですが、これは小6になった時には、検討、ここで検討して、ここでスタートするようになりますので、そうすると、じゃあ中学に入る時に、ここでスタート、変わるので、どうしようかなということを検討することになります。どうしようかなというのは、部活動でやるのか、それともこの時点でいくつかの地域クラブ的なものはできています。地域クラブという市が言っている名前ではなくて、地域で様々な活動が行われています。例えば、草サッカーのチームとか、そういうのはあるわけで、そういうところでやるかどうかというのを検討するというようになります。

で、この4年生も同じようにここで検討して、ここでスタート、こんな形になります。どうしても、どこかで移行するとなると、こういう方々、途中から、この2年間については途中から移行するという形になりますけども、これは、もうやむを得ないかなと。この時期を今の段階できっちり示しておいて、そして入学する前にどうするかってことを考えていただく、こういう考え方になります。

なぜ、この時期にしたかということですが、今のよう状況があって、混乱を

招かないように時期を明示して、そして、今の1番大事なのは、今の小学校6年生が4月入る時にどうなるかを、ちゃんと知らせておくと。もうすでにいろいろ検討していますから、もうこの段階で、この辺でやるとかというんじゃないで、1番早い時期として、ここで移行するという形にします。

もう1つ大事なポイントは、この地域クラブ活動ですけれども、今は学校の部活動をやっていきますので、学校の先生が指導してくれていますけれども、こうなると新しい活動の場があるわけですが、なかなか学校の生徒、子どもたちを指導するだけの体制を急に作るというわけにはいきません。場所によっては、場所によってというのは、市によっては、市がそういうクラブを設置するというのもありますけれども、この静岡市において、市がお金を出して、そういうクラブを設置するというと、莫大なお金になります。

それからもう1つは、すでにいろんなクラブ活動が行われて、クラブ活動ではなくて文化活動は行われているわけです。例えば、書道を取ってみると、書道教室のようなものがあって、学校の部活で書道をやりますけれども、そうじゃなくて、近くの先生のところに行って書道を指導してもらうというのもありますけれども。そうすると、これから部活動から地域クラブに移行した時に、じゃあ、それを新しく市がまた同じような書道部みたいな、書道地域クラブみたいなのを設置するんじゃないで、すでにそういうクラブ活動、ごめんなさい、その地域の文化活動が行われているわけですから、その中にうまく融合させるのが必要かなと思っています。

あるいは生涯学習施設ですね、生涯学習交流館なんかで、そういう活動も行われていますので、そういったことも利用しながらですね、やっていく必要があると思っています。

で、今後の予定ですが、そういったことを踏まえて、繰り返しになりますけれども、仮称静岡地域クラブ活動の実施にあたっては、これまでとは異なる新たな地域スポーツ、文化芸術活動の環境を構築していく必要があります。静岡市においては人口減少が続く中で、これまでの生涯学習の仕組みの持続性も課題となっています。生涯学習施設の中で、いろんな講座が行われていますけれども、そこも定員が充足していないとかっていうこともありますから、この生涯学習施設を、こういう地域クラブ活動の場として使うという方法もあります。したがって、そういったことで、静岡市においては、その生涯学習の仕組みも持続可能性が課題になっています。

やはり、これは教育大綱で示しましたが、生涯学習ということで、部活動と生涯活動は別と捉えるのではなくて、部活動、今までの部活動も生涯学習の一環として捉えて、新しい生涯学習の仕組みの中に地域クラブ活動を埋め込んでいくというのが必要だと思っています。

したがって、実現のためには既存の仕組みに捉われないで、学校施設や生涯学習施設などの市が保有する施設と、そして社会の人材、これを最大限活用して、市民や民間企業、団体の皆様との共同で進めていきたいと考えています。

そのためには、これまでは教育委員会が主導で検討してきましたけれども、これからは、スポーツ・文化・生涯学習等を担当する様々な部署が一体となって取組を進めていく必要があります。よって、今後は総合政策局を中心とした静岡地域クラブ活動推進プロジェクトチーム、ここにおいて、庁内一体となって新しい体制、静岡市においてはどのような地域クラブ活動が良いのかを検討して、今年の夏までには具体的なあり方を決定したいと考えています。

発表は以上になります。ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただ今の発表案件につきまして、皆様からのご質問をまずはお受けしたいと思います。質問のある方は、社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。

NHK さん、お願いいたします。

◆NHK

地域クラブの、全国的にこれ言われていることなんですが、指導者を、どう、大人ですね、どう確保していくか、これが課題になること多いんですが、まずこの点の今後の見通し、集める方法、そういったものはいかがでしょうか。

◆市長

はい。課題はその通りだと思いますけども、さっき申しましたけども、今すでに学校以外に指導者いっぱいいらっしゃいますから、その方々とうまく連携して、新しい指導体制を作っていくのが必要だと思います。

今、例えば、地域のクラブがありますけれども、任意と言いますか、少年野球であるとか、サッカーであるとかやっているとしたんですけども、それとは別に市が地域クラブっていうのをわざわざ作って、そこにサッカー活動っていうのを入れると、もう重複してしまうわけです。

そうすると指導者が足りないということがありますから、そうすると、そういうやり方をするんじゃなくて、今あるクラブの指導者、そういう方々とうまく連携をしながら新しい指導体制を作るのが大事だと思っています。

それからもう 1 つ大事なものは、やはり指導者がどういう人かということによって、結果と言いますか、力の伸び方が随分変わってきます。それについて、これまで日本ではよく勘とか経験とか、その指導者のですね、この考え方で、

独自の考え方で指導するということもありましたが、これからはもう少しそこに科学的な知見を入れて、そして指導者の、正直申し上げて指導者のレベルはそう高くなくても、高いレベルの指導ができるような新しいシステム、指導者のレベルは高くないというのは、ちょっと言い方は良くないですね、指導者がものすごく高い専門性を持っていなくてもできるような仕組みですね。それは今のいろんなスポーツ関係の行動を分析する、運動の状態を分析するアプリとかが出ていますので、そういったものを活用して、より高いレベルの指導、高い専門性が必ずしもなくても、指導できるような体制作りっていうのも必要ですので、そうすると、そういうアプリの導入、あるいは指導の仕方のようなもの、これもある程度、市が検討していく必要があるんじゃないかなと思います。そこをまた指導者に全部お願いするというんじゃなくて、標準的な指導方法で、こんなアプリを使ってこんな風にやるとこうなりますよ、みたいなものは、静岡市が用意していかないといけないかなと思っています。そうすることによって、多くの指導者の方に、あるいはボランティアの方にも、関わっていただけるんじゃないかなと思っています。以上です。

◆NHK

すいません、もう 1 つお金のところでして、まず今まで部活動ってお金は少なくとも保護者さんとか生徒は払ってはないんですが、この辺りを、じゃあ地域クラブにすることによってどうしていくのか。また、新たに地域クラブで指導される方々への報酬をどうしていくのか、具体的な金額だとすると今後かなと思うんですが、こういったところの考え方はいかがでしょうか。

◆市長

そこもこれから 2 年をかけて決めていかないといけないと思っています。それで有料化っていうことはもう避けられないと思います。もちろんボランティアで、例えば書道だとすれば、書道について近くでボランティアで教えてくださる方がいらっしゃれば、その方のところに学びに行くっていう形にすれば、それは無料でももちろん学ぶことができますけども、その一方で、やはり書道教室として指導料を取って運営されている方もいらっしゃるわけです。

その中に新しいクラブができて、これが安い値段で、なんかやりますってなると、その辺のバランスが崩れてきますので、やはりその辺りも考えた上での料金設定が必要かなと思いますし、それから、今すでに高いレベルで指導されている方に、そういう新しいクラブの中で活動していただくので、その方に一定の報酬をお支払いするってことも大事ですので、かなり、これから 2 年間で相当詰めた検討をしていかないといけないと思っています。

ちょっと言い方を変えると、市が新しく自分の市営の地域クラブっていうのを作るっていうのは、それは非常に簡単なんですけど、やり方としては。ただ、それをやると非常に高い費用がかかるのと、それから指導者をどう確保するのかっていうところの問題が出ますので、そうならないような仕組みが大事だと思っています。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん、お願いします。

◆静岡朝日テレビ

ちょっと基本的なことで、ちょっと申し訳ないんですけども、現在の部活動だと、ユニフォームのお金などは自分たちで負担をして、指導を受ける場合の料金はないと思うんですけど、義務教育なので。今後、地域クラブ活動に移行した場合は、例えば習い事みたいな感じで、お金を月謝みたいな形で払わなければいけないのか、それともそういった部分は税金で賄って、義務教育の間なので、それは市が負担するということになるんでしょうか。そのあたり教えてください。

◆市長

はい。必ず費用が発生するクラブが出るとは思いますが、全てのクラブ、ちょっとさっき申しましたけど、全てのクラブが、指導料がいるわけではないです。例えばサッカークラブでも、近くでボランティアで、自ら教えてくれている、無料で教えてくれているようなクラブもあるわけです。もちろんグラウンドの使用料だとか実費は出さないといけないですけども、指導者に報酬をお支払いするってことはしないようなクラブの活動もあるし、あるいはちゃんと指導者に対して指導料を支払い、払っているようなところもあるわけです。今でもそういう形態があるわけです。

今度新しいとこをどうするかということですけども、基本は有料ということになると思います。きっちりとした指導体制をやっぱり作っていきたいので、できる限り有料の施設、有料の指導体制ということにしていく方がいいかなと思っています。

ただし、それが、今まで無料だったものが急に上がるというわけにもいかないので、そこについて一定の市の負担というのを入れていくということになりますので、それがどういうレベルの負担になるのかというのは、これから検討するというような形になります。

◆司会

その他、いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

先ほど3ページの図で示していただいたように、検討時期が小学5年生、4年生であると思うんですけれども、そうすると少なくとも今よりも部活動に入る子どもっていうのは減って、クラブの方に先に入って、2027年9月を迎えるっていう形になると思うんですけど、部活動の人数が減った、減ることが想定されると思うんですけど、現場ではその場合どういうふうな対応を検討しているのか。例えば、もう減ったところは部活動を閉じてクラブに移ってもらうとか、そういった現場で想定されていることを、あれば教えてください。

◆市長

この図の通りですけれども、今の小学5年生は、ここで決めるわけですが、来年の4月に入学するときに、どうするかというのを決めるわけですが、この1年半は部活動ができるので、必ずしもここで部活動を選択しないで、地域クラブ、他のクラブ活動に行くということは、そう多くないんじゃないかと思います。というのは、この段階ではまだ新しいクラブ活動ができていないので、受け入れ体制があんまりないわけです。ですから、どこかに入ろうと思っても適当なクラブがないということが考えられますので、ここになると、今の小学5年生であれば、今というのは2026年度入学生については、それほど部活動が減らないんじゃないかなと思います。

問題は、ここのところですが、ここについては半年で部活動がなくなることになりますから、ここはもう、それで部活動でやるよりも地域クラブにということを考える人が増えると思います。

したがって、スタートはここになっていますけども、一斉スタートですので、この地域クラブ活動を、この辺からちゃんとできるように、枠をこの辺りで増やしていくっていうことが必要になると思います。

その辺の移行の仕方は、これから考えていかないといけないと思っています。

◆静岡新聞

ありがとうございます。もう1点、先ほど他社さんの質問にもあったように、費用についてなんですけれども、難波さんが先ほどおっしゃっていた話をまとめると、今現在クラブで、月謝みたいな形で費用が発生していると思うんですが、形としてはそういう形に乗っかるというか、継続するような形で想定していて、ただ無料から有料に、ただなるっていうわけではなく、市の負担も多少今検討

している状況という理解でよろしいのでしょうか。

◆市長

はい、そうですね。費用についてはどうなるかっていうのは、なかなか決めにくいところですよ。

もう一つ、生涯学習施設でいろんな講座があるわけですよ、今も。例えば今、書道でもパソコンでも講座がありますけれども、そこに入るということもありますので、そうするとそこに入るとか、そこにそのままなのか、今のその生涯学習施設の中での指導体制をうまく地域クラブに、それを埋め込むというやり方もありますので、そうすると、そのときの生涯学習施設の料金というのがありますから、月謝ですよ。だから、それとの関係も出てくるので、なかなか金額設定というのは悩ましいところだと思います。はい。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい。先に、毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

二つあるんですが、まず一つはスタート時期なんですけれども、先ほどの説明の中でもちょっと触れてはいたと思うんですけど、前回の記者会見のときの感じだと、2026 年スタートの方が、6 年度スタートの方が可能性が高いのかなという印象だったんですけれども、そこにできなかったというか、理由を改めてちょっと教えていただきたいんですけれども。

◆市長

はい。そのときも私はこれが一番有力だと言ったつもりだったんですけど、ちょっと言い方が悪かったのかもしれない。早められるんだったら早めてもいいですけど、ということもありますけれども。やはり、その時言ったのは、ここより前は無理でしょう、この後だ、と言ったと思うんです。それで、27 か 28 といったような気がしますけれども、それは何かというと、今の小学 6 年生は、今からこの方針がどうなるかも明らかでないときに、何か地域クラブ活動の言っても選択肢がありませんから、だからこの方はやっぱり 3 年間ずっと続けていただくっていうのが前提じゃないかなと思っていますので、そうするとやっぱりこの時期が一番いいんじゃないかなと。もっと後にするという方法が

ありますけど、今の状況で課題があるわけですから、できるだけ早くこれは前に持っていった方がいいと思っています。

そのときに、今の小学 6 年生の問題と、それから先ほどからお話ありますように新しい指導体制、あるいは料金をどうしていくか、月謝をどうしていくか、その辺りについて検討するのに、やはり 2 年はかかると思います。新しい指導、例えば先ほどのアプリを導入していくとかそういったこともありますので、やはり、この 2 年、実際言うと 2 年半ですね、2 年半は必要だなと思っています。

◆毎日新聞

私の思い違いだったのかもしれませんが。

もう一つですけど、今日いただいたもう一つの資料に多少書いてあるのかもしれないんですけど、地域クラブになった際に、生徒が選べる部活動の種類っていうのが、指導体制作りからしても、どうしても選択肢っていうのが狭くなる前提でいるのか、現状は確保しようというところを目指すのか。そのあたり教えていただけますか。

◆市長

はい。意外と選択肢は増えるんじゃないかなと思っています。やっぱり学校の部活動で言うと、一定の人数はないと部活動は成り立たないわけです。ですから、例えば 1 人の何々部っていうのは、あまり成り立たないわけです。ところが、何度も書道の話をしめますけど、すいません。ある学校で書道を学びたいという人が 1 人だとして、仮にその 1 人であつたら、この地域の部活動としては成り立たないわけです。だけど、地域の生涯学習の関係のところに入っていただくと、それは事実上部活動的なことができるわけです。

したがって、選択肢という面では広がるんじゃないかなと思っています。それが部活動っていうかどうかですね。例えばパソコンの使い方を学びみたいな教室もありますから、そういうところに入ってもらっているのを、ずっとパソコンを 1 年間やるかどうかっていうのはありますけど、そういうような選択、今ある生涯学習の仕組みの中では、ものすごい講座数がありますので、その中に入っていただくのであれば、活動範囲といいますか、項目は増えると思います。

◆毎日新聞

はい。ありがとうございます。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。すいません、先にテレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

すいません、ちょっと基本的なところなんですけれども、2027年の9月に部活から地域クラブに転換ということは、この9月に学校の部活動が全て廃止されるっていう認識でよろしいですか。

◆市長

そういうことになります。

◆テレビ静岡

となると、今この想定だと、今の小学生なんですけれども、今現在中学校で体育会だとか、音楽とかやっている子たちは、この9月に部活が終わって、自分たちでそういった地域クラブに入り直すというか…

◆市長

これで言うとどこになりますか。今の、こちらですかね。

◆テレビ静岡

現在の、今、中学1年生の子とか。

◆市長

今の子は、今の人はもう地域クラブ続きますので大丈夫です。あ、部活動ですね。今、小6の人が春に入ったときに、途中で、3年生の9月で部活動が終わることになります。だいたい部活動、この辺りで終わるケースが多いので、これはこれで、そんなに影響がないんじゃないかなと思います。

◆テレビ静岡

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

ちょっと費用の話になるんですけども、今自分の住んでいるエリアの近くにボランティアでやってくれる指導者がいるのかいないのかとかによって、費用がかかってくるかもしれないってなると、経済的に余裕のある家庭の方が、よりレベルの高い指導を受けられる状況になってしまうのかなと思ったんですけども、その公平性というのは、どのように保っていくようにする予定なのかっていうのと、今後、中学生になるであろう子どもを持つ家庭とかに対して、希望をヒアリングするような予定があるかどうかというのを伺いたいです。

◆市長

はい。費用の考え方っていう、ごめんなさい、その活動のレベルの指導力の問題ですけども、今でも高い、例えば、サッカーにしてみると、サッカーで指導レベルの高いところについては、それなりの、たぶん費用が発生していると思うんですね。そうじゃなくて、例えば、地域でサッカーの上手い人が教えているというのは、ほとんど費用が発生しないっていうのもありますので、今でもそういう選択肢はあると思います。

その中で、部活動なら無料ですけど、だけど地域クラブ、今のクラブ活動、ちょっと地域クラブとクラブ活動を混同しがちですけど、ちょっと正確性のために言うと、地域クラブというのは、これから先できるのが地域クラブで、今やられているのは、例えば、クラブ活動みたいな形とすると、あるいはチームでの活動とすると、それでも今そういう状況になっていますので、将来そこで部活動がなくなったときにも、同じ状態にはなると思います。それはそれで、やはりやむを得ないんじゃないかなと思います。

ただ、あまりにも高い指導料になると、クラブに入れないという、地域クラブに入れないという状態になりますから、そこは、やはり今の部活動の移行という形ですから、費用は一定程度に抑えるということが必要ですので、そのあたりの金額をいくらにするかというところは、これからしっかりと検討していかないといけないと思っています。

いろんなところで試行されて、金額はこのぐらい、例えば、月 1,500 円とか、そういうようなことでやられているようなことがありますけれども、そういった先行事例も参考にしながら、あるいはアンケート調査をしたりして、どのぐらいの負担だったら参加できるとか、そういうことを考えていかないとけないかなと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。あと、もう 1 点だけすいません。今、現役の教員の方で

部活動をやりがいに行っているような方もいらっしゃると思うんですけども、地域クラブに移行した際も、そういった人材を活用していくという予定は、ありますでしょうか。

◆市長

そうですね。それはその先生方がそうやって指導してくださるのは、非常にありがたい話ですので、ただし、そこの中での報酬をどうするかっていうのは、また出てきますけれども、ぜひ、そういう意欲のある方は、地域クラブになっても、意欲のある学校の先生が、地域クラブの中で活動していただくというのは、大歓迎と思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。はい。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

地域クラブなんですが、加入は基本的には義務なのか、それとも任意になるのか、その点はいかがでしょうか。

◆市長

全く任意ですね。

◆司会

はい。その他発表案件についてのご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、幹事社質問に移りたいと思います。本日はNHKさん、よろしくお願いいたします。

◆NHK

はい。お願いします。事前に二つお願いしましたが、一つ目の清水さくら病院につきましては、昨日竣工式があって、その後に難波市長も各社のメディアの取材に応じていただいているので、いったん幹事社質問からは省略しようかなと思いますので、もう片方だけにさせていただきます。

ちょうど今、もうそろそろ出てくると思うんですが、日銀の金融の決定会合の中で、利上げをするかどうかの検討がされていまして、静岡市も市債を抱えて

いたり、あるいは何らかの運用なんかをしている自治体さんもあるので、少なからず影響が出てくるのかなと思ひまして、仮に利上げってなった場合への市政、市の財政上の運営ですかね、こういったところを、影響、どのようなものが出てくるのか。去年、2 回、金融政策も変わっていますので、ちょっとそういったところも含めてお話いただければなと思います。お願いします。

◆市長

はい。ありがとうございます。これは利上げになると公債費が上がってきますので、その影響は出てくると思ひます。何%の利上げになるかというところがポイントになりますけれども、急激な利上げになると、公債負担が非常に増えてきますので、大変です。これからよく考えていかないといけないですが、例えばですけども、市債を令和 5 年度と同程度の 337 億円発行したとすると、市債の利率が 0.1%上昇すると、約 3,000 万円、当然ですけど利払いが増えますので、そのあたりの影響は出ます。0.1 ならそうですけど、0.5 だと 1.5 億円 1.6 億円ぐらいになりますから、負担レベルとしては、そのぐらいの影響が出てくるということになります。

◆NHK

承知しました。逆に、市として何らかの運用っていうのもされているものなんでしょうか。一般人で言う預金にあたる場所ですかね、これって必ずしもデメリットだけではなくて、預金たくさんしている人なんかだと、かえって利子が増えるのでもいいということはあるんですが、市としてメリットになるところ、そういったところはあるのでしょうか。いかがでしょうか。

◆市長

運用については、実は静岡市は今まで積極的にやっていません。安全性重視ということで、最も安全性が高いところを重視して、この有利性っていうところをあまり考慮していなかったというのは、有利性というのは利率が高いところなんです。ですの...

ちょっと書いてみますけど、こちらに安全性があって、それでこっちに利回りがあるとします。そうすると、最高の安定性、例えば、AAA みたいなもんだとしますけど、最高の安定性を求めたら、ここになるんですけど、このときの利回りは一番低いわけです。最も低いわけです。今までの運用は、こういう運用をしています。この運用の仕方をしています。最も安全性が高いところを、どう置くかですね。こうあって、ABC とあって、ここもいいですよ、A であれば、最も、ここが最も高いです。安全性が高いということになると、ここまで運用

していいということになれば、ここはもう少し率は上がるわけですね。今までは、最も高いという解釈をこれでやっていたので、そうすると、もう一番低い運用しかできないとなっていました。

これから、「最も高い」の考え方を、今どうするかということで、中で検討しています。もうちょっと下げてよければ、より積極的な運用があるので、今、外部のアドバイザーも入れてどういう運用がいいか、最も安全性は高くないといけないわけですが、高い安全性を確保した上で、より高い利回りを取る方法があるかどうかですね。その辺りを今、検討しています。

そうすると、投資的になりますけど、投機ではなくて投資的になりますけど、やっぱり市として、どの程度の投資的であれば大丈夫かというあたりについて、今、議論しているところですので、いずれというか、早いうちにそこを決めて、運用を開始する必要があると思います。特に利上げになった場合は、やはりより積極的な運用をしていくということは必要になってきます。ただ、金額的にはそれほどものすごく大きなわけではないですけども、それにしてもやっていけないといけないと思っています。

例えばですけど、今、基金がいっぱい置いてあるんですが、基金ほとんど運用していないんですよね。だから、そういう基金のあり方ということも考えていけないといけないと思っています。

◆NHK

今のまさに運用を見直しされているっておっしゃいましたが、これって定期的にしてきたことなのか、それとも何かきっかけがあって今、見直しをしているってことなのか、その点はいかがでしょうか。

◆市長

やっぱりまずいでしょうということ、私がそう思ったということですけど、外部の方からも、もちろんそういう指摘もありました。「今、市はどういう運用をしているんですか」ということで、「こういう運用ですよ」と言ったら、「えー」とのもありましたですね。だから、「他の自治体では、こういう運用をしていますよ」「もっと高い利回りを求めた運用をしているところもありますよ」というお話しも伺っていますので、そういった点から言うと、私が市長になって。やっぱりこの状態ではもったいないですよね、ということで、今、変えようとしています。

◆司会

はい、ただいまの幹事社質問に関連したご質問があれば、お受けをしたいと思い

ますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、その他のご質問があればお受けをしたいと思います。はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡市が来年度から敬老祝い金を廃止する方針だというふうに伺いました。これを決めた背景と、あとはご所感をお願いいたします。

◆市長

はい。少しずつ見直していたんですけども、まず長寿社会になっているということがあって、80歳というのは、ある種もう普通になってきていますので、そこで配付、祝い金を出すのがいいのかどうか、ということもまずあります。ただ、一番大きな理由は、現金を配付するんです。今、これ、ちょうど持ってきましたけど、こういう形で出すわけです。ご長寿おめでとうございますと、静岡市になっているんですけど、ちなみに、これ、前市長のときは、市長名で名前が入っていました。なので、私はやめました。1年目はちょっと知らなかったんで、私の名前で出ているかもしれません。やっぱり、それはおかしいですよ、今は、2年目は市長じゃなくて、静岡市で出ています。それをまず変えました。

次は、どうするかということですけども、自治会の皆さんにいろいろ聞いてみると、やっぱり大変ですと、この現金を持っていくのは。今、なかなか、入口で、ピンポンと押しても出してもらえないような状況もあるわけですよ。だけど、それで持っていけないといけないというようなことがあるので、結構、負担なんです。そんなもんいらないっていう方もいらっしゃるんで、そうするとそういう状況で、これを続けていくべきかということを、自治会の皆さんとも話をしました。それで、これはやめていいんじゃないかというご意見を賛同いただきましたので、この祝い金はやめるという形にしました。

その一方で、やはり長寿を地域でお祝いをするということは大事なことで、現金で出すというんじゃなくて、例えば、敬老祝会みたいなのをそこで開いて、そこに地域の方々が集まっておめでとうございますって言って、何かこう、わいわい話をしていくっていう形は、それは地域の絆といいますか、地域社会人にとって非常に大事なことだと思います。温かい社会という点で、非常に大事だと思いますので、むしろ現金の配付をするのではなくて、そういう敬老会というのをもうちょっと活発にしてもいいんじゃないかということで、祝い金を廃止する一方で、この敬老会のための費用は少しですけど増額しました。そういう背景になります。

◆静岡朝日テレビ

はい。その分、来年度対象となるのが、大体 11,600 人ほどだと伺いました。1 億円ぐらいが、その分浮くと思うんですけど、それはこういった事業や市の政策に活用していくお考えがありますでしょうか。

◆市長

浮いた分の一方で、敬老行事の補助金というのは、これは少し増やしますので、1 億 600 万円、概算ですけど 1 億 600 万円敬老祝金が減ります。その一方で、4,400 万円程度敬老行事補助金を増やしますので、差し引き 6,300 万円ぐらいが費用削減となります。その分は、やはり、いろいろな社会への、福祉関係の費用が非常に増額をしていますし、来年もそこは強化する予定です。例えば来年、ごめんなさい、今年の 4 月からやる予定ですがけれども、例えば、身寄りのない方が何かあったときに、市に連絡、事前に市に登録をしておくと、市がいろんな連絡をしたり、あるいは事前に市と契約をしておいていただければ、亡くなったときにお葬式だとか、あるいは家財の処分だとかそういうのは市がやりますよというような制度も今作っていますので、そういう安全安心に繋がるものを作りたい、作っていく予定ですので、そちらも費用がかかりますので、そういったものに使いたいと思っています。

やはり身寄りのない方、身寄りってというのはちょっと失礼ですけど、お 1 人で暮らしていて、私も 1 人で暮らしていますけど、もし何かあったときに、家族が、その後でお世話をしてくれる家族がいらないという方も非常に増えていますので、そういった人は自分が亡くなったときはどうなるんだろうと、すごく不安になるっていう話は、かなりの方々から聞いています。

したがって、そういう方々への見守り、安心のためのサービスというのを、これから、4 月からやっていきますので、そういったところの費用にも充当していきたいと思っています。

◆静岡朝日テレビ

すいません。最後に一点だけ、敬老祝金が始まったのは、いつぐらいからなんでしょうか。

◆市長

すいません。ちょっと、すぐには。

◆静岡朝日テレビ

すぐに出なかったら、後でも。

◆市長

すいません。ちょっと聞いてみます。

◆静岡朝日テレビ

以上です。ありがとうございます。

◆司会

はい。その他のご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

リニア工事について伺いたいと思います。岐阜県内で地盤沈下の問題などが出ている中で、先日 JR 東海が、その地元、岐阜県内の地元で住民説明会を開いたときに、リニア工事が影響している可能性が高いというふうに、ある種認めたような説明をしました。その中で、そういった説明があったことに対しての受け止めと、今、静岡市が進めている環境影響評価に、何かこう見直しというか考え方を変更していくような予定があるのかどうかというのを伺いたいです。

◆市長

はい。どういう状況かというのを知りたいので、静岡市としても問い合わせ、岐阜県の環境影響評価審査会地盤委員会というのが、1 月 22 日に開かれていますので、その資料をいただいています。それによると、どの場所で、どういう状況が起きたのかということがわかりますので、それが静岡にどういう影響をするかということですが、これ、我が方いただいているけれども、開示していいかどうかの確認していないので、ここでお見せするわけにはいきませんが、ここで起きたことというのは、トンネルを掘り始めて、土被りというのがありますけども、ごめんなさいね。ちょうどこれを使って、ここが地盤面ですよね。ここに今、道路があるわけですね。これが道路面になります。トンネルがこう入っていくわけですが、この深さですね。これが土被りと言って、土被り厚とか、土被りと言ったりしますが、これになります。それで、静岡県内のリニアの場合は、これが 400mとか、500mとか、400mとかそれぐらいの深さになるわけです。で、ここは 10mです。したがって、静岡県内のリニア工事で起きる現象と、ここの現象は全然違いますし、これについて、

このくらいのトンネル工事では、よくあっては困るんですけど、意外にあり得ます。この土被りはもうちょっと深い、大深度って 40mよりさらに深いところは、外環自動車道のところでやはり沈没、沈下、起きましたけども、これもまた、それはシールド工事での沈下が起きました。これまた別の現象ですよ。このような浅いところだと、元々そういうことは起きうるということで、どうも資料を見ると元々管理値が決めてあって、何センチぐらいは沈下する可能性があるということは見込んでいたようですので、ある種想定内の、沈下しないに越したことはないんですけども、想定内の範囲の沈下が起きているということではないかなと理解しています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

話がちょっと戻りまして、敬老祝い金の関係でちょっとお伺いしたいんですけども、先ほどの市長が、その敬老祝い金の現金が入った封筒に、市長名が入っていたのは、それはちょっとおかしいよねとなってやめたという話があったんですけど、おかしいと思われた観点というか、理由といいますか、それは、選挙とかそういう関係上おかしいというふうに思われたんですか。

◆市長

選挙の問題はちょっと別問題で、それはそれで選挙違反に当たるかどうかというのは別問題だと思いますが、これ、別に市長が出すわけではないわけですよ。当たり前ですけど、静岡市としておめでとうございますと言うものですから。ですから、ここに難波喬司と入っているかどうかは別にして、静岡市長で出すのは、私はそれは適切ではないと思います。まして名前が入っているというのは、より適切でないと思います。ですから、これはあくまで市として出すものなので、市の名前で今は出していますが、それだけです。あまり選挙のことでそうしているというわけではなくて、社会常識としてどうだろうかということから考えると、社会常識といっても私の考えかもしれません。そんなの構わないという人も、もちろんいらっしゃると思いますので、私は、やはりこれは市の名前で出すべきだと思っています。

◆静岡新聞

その関係で、去年、今年度というか、去年は難波市長がそのことを知らずに、難波市長の名前が入った状態で…

◆市長

去年、多分、ちょっと聞いてみますけど、多分、1年目は私、知らなかったので、前のときから踏襲をして、市長名で私の名前が入って出していたんじゃないかなと思います。令和5年度は、どうですか。

◆高齢者福祉課長

そうですね、昨年度はもうすでに入っておりません。

◆市長

だから1年目は、私の名前で出していた。

◆高齢者福祉課長

そうです。就任当時は。

◆市長

ということになります。

◆静岡新聞

それを昨年度から…

◆市長

今年度ですね。

◆静岡新聞

ごめんなさい、今年度から。

◆市長

今年度からこの形ですね。

◆静岡新聞

はい、わかりました。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。ご質問よろしい…。はい、NHK さん、お願いいたします。

◆NHK

すいません。先ほどの市の債権の運用の見直しのところなんですけど、すみません。始めた時期、その見直しを始めた時期っていうのが大体いつぐらいなのかっていうのと、あと、もう一つが、今いわゆるポートフォリオってやつで、おそらく、ほとんど国債とか地方債なのかなと思うんですが、それをどう見直していこうとしているのか、改めてその点ちょっとお願いします。

◆市長

はい。見直そうとしたのは、去年の4月からだと思います。くらいからやっぱり検討した方がいいだろうということで、もうちょっと前かもしれません。去年の1月か2月かもしれません。ちょっと記憶にないですけども、やっぱりもっと見直した方がいいんじゃないかという思いです。

ちょうどそれについて、外部アドバイザーからの助言もあったので、それは複数の外部アドバイザーですけど、あったので、それはその通りだということで、去年から検討をして、今年度、検討しているという状況です。

ただ、まだ、どうも、やはり、今までずっと、超慎重姿勢でやってきたので、なかなか踏み込めないんですよね。ですけども、いよいよ、こういう金利も上がるような状況になってくると、そこはもっともっと、あと、金利もそうですし、財政状況も厳しいわけですから、やはり、もうちょっとリスクを取りに行くということもやっていかないといけないと思っていますので、来年の、来年度からの運用については、少しずつですけど、そこを新しい運用方法でやっていきたいと考えています。

◆市長

はい。その他、ご質問よろしいでしょうか。

では、以上をもちまして、本日の定例記者会見を終わらせていただきます。

◆市長

はい。ありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は、2月3日の月曜日になりますが、開始の時間

をすいません、30 分前倒しをさせていただきますして、10 時半から開始とさせていただきますいただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。

以下、追加説明分

◆市長

学校給食の提供回数が、静岡市は政令市で最低だっというような噂が巷で流れていて、それについては、ちゃんと根拠を持ってやっていけないといけないので、あえてあまり細かく説明するつもりはありませんが、せっかくだから、やはりした方がいいですね。静岡市は、決して給食の提供をサボっているわけではないということの資料を一応お渡ししておきます。

わざわざ発表するような案件じゃないですが、巷でそういう噂が流れていて、それが静岡市何やってるんだっという、そういうのが拡散していくと、要はそのデマ情報が拡散していくことになるので、早めに抑えておくことが必要だということで、この資料を作っています。

それで、ちょっとだけご説明しますけど、表を出してください。表がないか。ごめんなさい、表はないそうです。ちょっと例を言いますけども、静岡市では、まず授業日数が少ないんです。給食の提供回数というのは、何に影響されるかというと、まずは授業日数です。授業があるかどうかということと、もう 1 つは半ドンかどうかということですよ。ですから、半ドン、お昼前に帰る時に給食を提供しないので、その回数で決まります。

したがって、生徒はいるんだけど、昼いるんだけど、そこで今日は給食がありませんなんていう日はありません。したがって、給食の回数は、給食の提供をサボっているわけではありません。実際に見ると、静岡市は、まず授業数は 198 日が基準になっていますが、横浜市は 206 日ということで、あるいは、さいたま市は 205 日ということで、まず授業日数が多いところがあります。それは、その市町の考え方です。半ドンのようなのを多くとるのか、もっと日数を減らして集中的にやるのか、ということの差があります。

総授業時数というのがありますから、これは、どこでも同じようにちゃんと、取っています。今度こっちですけど、給食の提供日数ですけども、静岡市は 180 日ということで、今、静岡市の授業日数は 198 ですので、給食の提供日数は 180 で、18 少ないです。この 18 がどういう時かということ、運動会だったり、音楽会だったり、社会見学だったり、修学旅行だったり、こういうところで 18 日間減ります。したがって、こういう日は提供しようがないわけです。

したがって、静岡市は決して給食の提供をサボっておりませんので、そういう噂が巷に流れていますが、あれはデマだということを申し上げておきたいと

思います。よろしくお願いいたします。すいません。失礼いたしました。

◆司会

では、以上となります。ありがとうございました。